

テクノの未来を考えるニュースレター

Vol.

2

テクノの
未来を
考える

2026年7月

みんなで出し合った 意見をご紹介します!

現在、播磨科学公園都市の新たなあり方について、「まちづくりチーム」「都市フレームチーム」「イノベーションチーム」の3つのチームに分かれて検討を進めています。

令和8年6月18日には、「イノベーションチーム」の初回会議を開催しました。主なご意見は裏面に掲載していますので、ぜひご覧ください。

今後も3つのチーム会議の開催状況や意見交換の内容については、「チーム会議ニュース」として引き続きお知らせしていきます。

チーム会議 開催概要【イノベーションチーム(第1回)】

■日 時: 令和8年6月18日(木曜日)

14時00分～15時30分

■場 所: 光都プラザ cotohana (+ Web)

■出席者数: 16名

■プログラム内容:

1. 開会

2. 解消説明

3. 協議

・光都におけるイノベーションについて意見出し

・検討項目の確認(項目の過不足の有無)、検討内容のイメージ合わせ

・各コーディネーターからのコメント

4. 閉会

・テクノにおけるイノベーションの捉え方や活性化のイメージについて事務局等から説明を行った後、参加者全員で意見交換を行い、検討項目の過不足や今後の議論の方向性について確認しました。

【イノベーションチームの主な論点】(令和7年度第3回あり方協議会資料より)

カテゴリー	主な論点
科学技術 ・産業振興	● 立地の優位性等を活かした企業誘致 ● 研究成果の社会実装・地域還元 (起業、試作・実証フィールド等) ● 産学官民の連携促進 ● 研究者の滞在環境整備 ● 人材循環の仕組み 等
その他	● 播磨科学公園都市ならではの会議・イベント・ツーリズム等の開催・定着 ● 科学技術を核にしたオープンで国際的な都市イメージ・ブランドの構築 ● まちびらき30周年を区切りとしたレガシーの形成 ● 多自然地域の今後のくらしと産業のあり方



☆コラム 先生に聞いてみた!

「イノベーション」ってなに?

「イノベーション」と聞くと、難しい技術や大きな発明を思い浮かべるかもしれません。でも、先生によると、イノベーションとは「今あるもの同士を組み合わせ、新しい価値を生み出すこと」なのだそうです。これを「新結合」といいます。たとえば、光都には、SPRING-8、県立大学、企業、学生、自然、整ったまちなみなど、たくさんの資源があります。これらを組み合わせることで、光都らしい新しい取組が生まれるかもしれません。

また、イノベーションは、最初から難しい研究や専門的な技術から始める必要はありません。たとえば「焼き芋をどうしたらもっとおいしく焼けるのか」を科学的に考えてみるように、身近な疑問や暮らしの中にある「もっとこうなったらいいな」も、立派な入口です。そんな身近な一歩から光都のイノベーションは始まるのかもしれません。



チーム会議の様子

主な意見



その他、全ての意見
はこちら！



参加者

- テクノには大きな可能性があるが、過去にも多くのアイデアが出てきた一方で、実際に「誰がやるのか」が明確でなかったことが課題
- SPring-8はテクノの大きな象徴であるが、地元の住民であっても施設の内容や役割を十分に知らない場合が多く、まずは認知を広げるために、住民や子どもたちにも分かりやすく伝える機会や仕組みが必要
- イノベーションを都市振興につなげるには、SPring-8だけでなく、企業、大学、学校、住民が連携し、地域全体で実証に関わる仕組みをつくるのが、テクノらしい活性化につながるのではない
- 過去の取組や既存施設、学生の活動などを洗い出し、それらを組み合わせることで、新しいイノベーションの種を見つけることが重要
- 今後、どのような企業を呼び込みたいのか、どんなテクノを目指したいかを具体化しなければ、取組の方向性がぼやけてしまうのではない
- 国家戦略特区や国の交付金などを活用し、3市町が関わる「産業クラスター」の形成に向け、外部資金を取り込む視点も重要
- 外部から新しい投資、研究者、企業を呼び込むには、同様の課題を抱える他都市の取組や、公民連携の事例を研究することも有効



有識者（コーディネーター）

- 住民がわくわくでき、楽しく関われるまちづくりこそが、今後のテクノにおけるイノベーションを考えるうえで重要なキーワードである
- テクノでは、SPring-8を活かした材料開発などの川上型イノベーションだけでなく、生活や需要から発想する川下型イノベーションも重要
- テクノには電柱のない都市構造や過去のドローン・自動運転など、実証実験に向けた基盤は既に整っている
- 難しい科学技術から入るのではなく、焼き芋のような身近なテーマから科学やSPring-8につなげる入口をつくるのが有効
- 若者や学生の自由な発想を起点にし、大人がそれを支えることで、失敗を恐れず挑戦できる雰囲気をつくるのが重要
- 国の政策でも産業クラスターが再び重視されており、テクノをどのような産業クラスターとして位置づけるかを考えるのが重要
- まち全体を実証の場とする「リビングラボ」の考え方を取り入れ、企業や研究者が社会実験を行い、社会実装につなげる場として打ち出すことが考えられる
- 外部の研究者や企業が入りたくなる流れを作ることが重要で、テクノの中だけで完結しない発想が必要

チーム会議はスタートしたばかりです。今後もワークショップ等の意見交換の機会を予定しています。テクノの未来を、一緒に考えていきましょう！



播磨科学公園都市の新たなあり方 検討協議会マネジメント会議

【事務局】兵庫県企業庁 地域整備振興課
【電話番号】078-362-3850
【E-mail】chiikiseibi@pref.hyogo.lg.jp

テクノのあり方検討
についての詳細情
報はこちらをご覧
ください
(兵庫県企業庁HP)

